

神楽通信

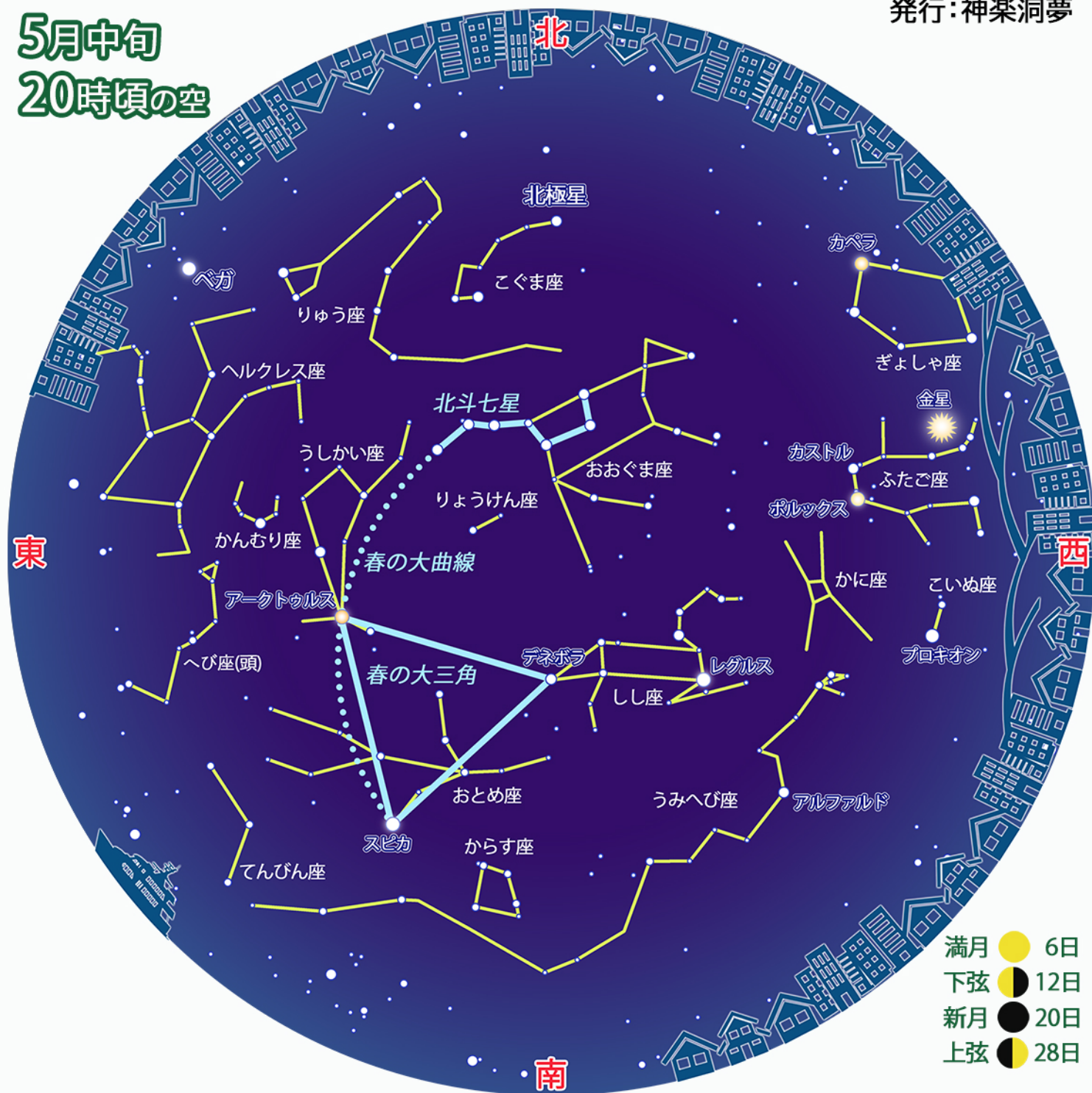
No.87

2023年

5月号

発行:神楽洞夢

5月中旬
20時頃の空



5月2日は八十八夜、日暮れもずいぶん遅くなり、初夏の陽気が感じられる季節になりました。この時季、星空では北斗七星からたどる「春の大曲線」を高いところに見つけることができます。大曲線上に輝くアークトゥルスとスピカの二つの星は「春の夫婦星」とも言われています。特にアークトゥルスは全天21個の1等星のなかでも四つしかないマイナス等級の星です。夫婦での輝きや色の違いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

様々な楽しみ方のある北斗七星

春の夜空高く昇った北斗七星は、春を代表する星の並びのひとつです。

日本や中国などでは昔からひしゃくの形に見られてきましたが、他の地域では片手鍋(フランス)
すき
や犁(イギリス)、馬車(イギリス・中国)のような乗り物にも例えられており、様々な地域でも目立つ星の並びであったことを伺い知ることができます。

また、北斗七星は北極星を探すための手段としても有名です。ひしゃくの先端の二つの星をつなぎ、その長さを5倍分先端方向へ伸ばせば、その先に北極星を見つけることができます。北斗七星は北極星の周りを24時間でおおよそ360度、反時計回りに動いているので、1時間におおよそ15度動くことになります。そこで北斗七星の動きを時計の針に見立てると、回転した角度で、おおよその時間を知ることができます。

北斗七星を使って視力検査をしてみよう

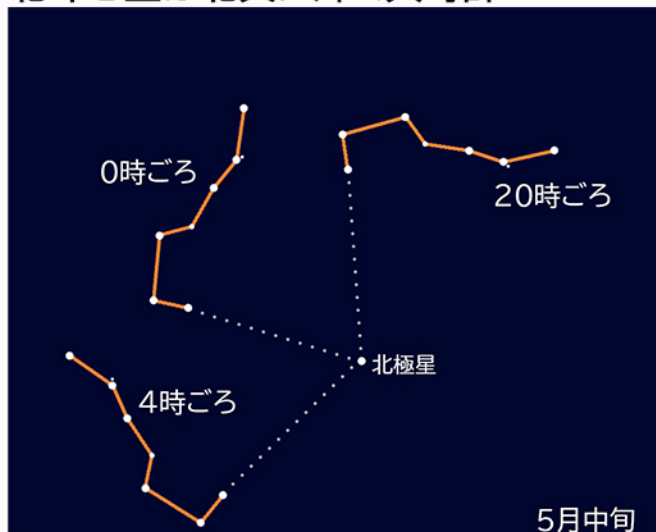
便利な北斗七星ですが、七つの星の並びの中には、アラビアの兵隊で視力検査に使われていた星があります。ひしゃくの柄部分に輝く2等星で、ミザールといいます。ミザールのすぐ隣にはアルコルという暗い4等級の星があり、ミザールを馬、アルコルを騎手に例えて視力検査を行ったとされています。夜空に目が慣れてきた時にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

ミザールを望遠鏡で覗いてみると、すぐ近くにもうひとつ別の星が寄り沿っているのが分かります。これらの星は互いに重力の影響を及ぼしあっている「連星」で、寄り添っている星はミザールBと呼ばれます。ミザールの連星系は望遠鏡を使って初めて発見された連星でもあります。

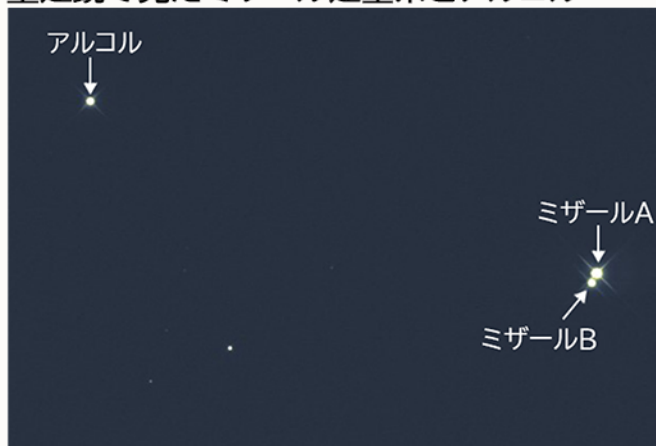
北斗七星を使った北極星の見つけ方



北斗七星は北天に輝く大時計



望遠鏡で見たミザール連星系とアルコル



画像:国立天文台